

その内容は「新型爆弾を投下する。非戦闘員は直ちに広島より退去せよ」と。

官憲直ちにこれを回収「所持する者は銃殺に処す」（これは鷹の橋周辺に大量に散布された）と。

昭和二十年八月六日午前八時十五分、賀茂郡西条（今の東広島市）上空を通過したB-29二機が広島に世界最初の「原子爆弾」を投下した。

強烈な閃光（せんこう）が約十秒、続いて猛烈な爆風、半径五百メートルの大火球となり、表面温度摂氏四千度と言われ広島市の大半は一瞬にして灰燼に帰した。

その時、西に向かって建物疎開に従事していた広島西部の中等学校の生徒は爆心地五百メートル以内の地点で被爆、大半は被爆死した。

私の学校である広島市立商業学校

の学徒は、現在の平和公園南の路上で被爆死した。被害内容は、先生五名と生徒一年生在校生二百十九名のうち、当日出席者二百十五名中二百十四名が原爆被爆死した。また二年生もこれと運命を共にした。この内容は八月十一日、原爆被爆で灰燼と帰した広島市内に、被爆後二度目の学校訪問時正門入り口に向かって左角の武器庫前で、関係者と連絡事務を行っていた先生に直接聞いた話である。

偶然か神の采配か、建物疎開より再動員に切り替えられた私と大門・浜田両君が工場動員で指定された場所は、三菱重工業株式会社広島機械製作所部品工場己斐第一分工場であり、ここには二百五十名程度の学徒が配属されていた。この分工場ではドイツのメッサーシュミットに用い

られているロケットエンジンと同種のロケットエンジン（今のジェットエンジンに類似）や、特種潜航艇のトランスミッションが製作されていた。私は山崎組に配属されて特種潜航艇のトランスミッション（改H6）の軸受部加工の横ぐりボーリングマシンの加工助手として配置され、先手（さきて）と呼ばれる。

特種潜航艇とは敵の港の中に入り魚雷攻撃をする小形攻撃潜水艦のことである。

ここは爆心地より二千五百メートルの地点であったが、強烈な閃光が約十秒続き、その間に強烈な爆風に襲われ「照明弾だ」「停電だ」の絶叫のうちに簡易の工場は倒壊した。

私たちは、全員下敷きとなるも大きな機械が並んで配置されていたので、学徒には大した負傷者も出なか